



若い人にも公民館を
もっと活用してほしい…

地域の方々に
活躍の場を
提供したい…

小・中学生に
地域行事に参加
してほしい…

地域の子どもに
勉強を教えて
あげたい…

子どもに地域へ
の愛着を持って
ほしい…



地域住民

公民館と

学校園の連携のススメ

公民館の講座を
学校でもしたい…



学校園

子どもたちに
様々な体験を
させたい…

主体的に物事に
取り組める子ども
を育てたい…



地域と学校園がパートナーとして、共に子どもたちを育て、そのことを通じてこれからの地域を共に創っていくことが今まで以上に求められています。

“より良い学校教育を通じてより良い社会を創る”という目標を学校園と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校園の連携・協働の推進が重要です。

そこでお勧めしたいのが地域の皆様と共に進める「**公民館**」と「**学校園**」の連携です。

公民館は、地域の学習、活動の拠点であり、地域全体で子どもたちの成長を支えていく活動をする上で、重要な施設です。岡山市では、市内全中学校区に公民館を設置しており、各館に社会教育主事などの社会教育の専門資格を持った職員を配置しています。こうしたことから、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、公民館は**学校園の重要なパートナー**としての役割が期待されています。

このリーフレットには「4つの事例紹介」と「公民館と学校園の連携のヒント」を掲載しています。事例紹介では連携の参考となる様々なパターンを、連携のヒントではポイントとなる点をまとめました。

地域の方々、公民館・学校園関係者の参考になれば幸いです。

事例紹介1

寺子屋「高松」

子どもたちが主体的に学べる場づくり

寺子屋「高松」とは？

高松公民館で実施する「小学生」「中・高校生」を対象とした**自習形式の学習の支援**

開講のきっかけ

元館長と来館した中学生が交わした何気ない会話からでした。公民館を訪れた中学生に、「公民館で何がしたい？」と尋ねてみると・・・➡「勉強」「高校の話聞いてみたい」と答えたそうです。

ねらい・大切にしていること

■子どもたちの学習機会の提供

- ・一方的な学習支援を行うのではなく、子どもたちの学習の「見守る」ことを基本スタンスとする。
- ・子どもたちの「なぜ」「なんで」を大切に、子どもたちが「自分のペース」で学ぶことに配慮。

■『定（さだめ）』-寺子屋5か条-に基づき、子どもたちの**人間的な成長**を図る

■子どもだけでなく、**教師にも良く、地域にも良いもの**を（近江商人の商是「三方よし」の精神を参考）

概要

平成24年秋 発足
開催日時 毎月第1・第3土曜日
9:30~12:00
学習対象者 小学校から高校生
※申込不要 無料
指導者 無償ボランティア

通常の学習支援の他に・・・

- ・教えて先輩講座（高松中学校の卒業生と在校生による）
- ・読書感想文の書き方講座 ・理科大好き講座 ・異文化交流講座

ボランティアスタッフ

- ・地域在住の小・中・高校の教員OB、大学生

実施方法

高松公民館内で2部屋「小学生」「中・高校生」設置し、自習形式の学習支援

広報

- ・学期毎に学区内のすべての小中学校に案内プリントを配付
- ・公民館広報紙、ホームページ、フェイスブックにて案内

《定（さだめ）寺子屋5か条》

- 一、志を高くもとう
- 一、他人の嫌がる言動はつつしもう
- 一、熱中できるものを見つけよう
- 一、周りの人に感謝する気持ちをもとう
- 一、郷土を愛そう

High building low foundation

■成果

- ・子どもたちに主体的な**学習の機会**を提供できている。
- ・「学年」「学校」「得意・不得意」が異なる**子ども同士がつながる場**にもなっている。
- ・複数学年と一緒に学習することで、**上の学年の子が下の学年の子に教える姿**も見られる。
- ・ボランティアの教員OBと大学生が**休憩時間に情報交換**をするなど、有意義な時間となっている。

■今後に向けて

- ・指導者の確保→コロナ禍で求人がしにくい。
- ・子どもたちの参加→部活やスポ少等で参加したくてもできない子がいる。

■社会教育委員の意見

- ・「三方よし」の考えを取り入れた素晴らしい取組。塾のようで「**人づくりの場**」となっている。
- ・異年齢の子どもと一緒に学ぶのは良いことだと思う。
- ・学んだ子どもたちが将来ボランティアを志してくれたらうれしいつながりになると思う。
- ・<定>が良い。
- ・小・中学生が公民館へ来館する**機会**を設けていることが良い。



事例紹介2

中高生登録制ボランティア「チーム灘」

「チーム灘」とは？

- 灘崎公民館主催の登録制の中学生・高校生のボランティアグループ（H29年度発足）
- 公民館、学校、地域においてボランティア等の地域貢献活動に取り組む

ねらい・目的

令和2年度登録者
37名（うち高校生5名）

①「地域の担い手」意識の育成
灘崎中学校区の中高生が、地域の中でボランティア活動をし、様々な世代の人々と交流することを通して、**地域の良さ**を認識し、**地域への愛着**を深め、将来**地域を担う一員**であるという意識の育成を図る。

②組織・活動の「**継続**」
年度毎に「チーム灘」を編成する。年度初めに、中学校在校生に登録の機会を設ける一方で、**卒業生も引き続き登録可能**とすることで、組織と活動の継続を確保する。

③組織・活動の「**発展・自立**」
与えられた活動をこなすだけでなく、**自分たちで活動を企画**することで、組織と活動がより発展し、自立的なものになることを目指す。

- ・ PDCAサイクルの実行
- ・ 「チーム灘」の自立を促進

メンバー募集・登録

年度初めに公民館がメンバー募集チラシを作成
↓
中学校が全校生徒へ配付
↓
登録申込受付

ボランティア依頼

活動ごとに公民館がボランティア募集案内を作成
↓
中学校が登録者へ配付
↓
参加の有無を回答

組織運営

年3回のミーティングを実施

- 5月 組織編成、目標設定、活動計画立案（リーダー、サブリーダーを決定）
- 10月 前期活動の振り返り、後期活動の検討
- 3月 本年度の反省とまとめ、次年度の計画、研修会

地域住民で組織された公民館運営委員会「青少年健全育成部会」「地域づくり部会」等がサポート

活動例（抜粋）

他にも地域からの依頼があれば、適宜対応

- 公民館主催講座「**なだ公スクール**」
長期休業中の小学生を対象とした、体験学習、交流の場における補助

- 「**灘崎小学校土曜授業**」
 - ・ 4年生「防災ゲーム」の進行
 - ・ 1年生「英語リトミック」の補助
 - ・ 2年生「工作」の補助
 - ・ 6年生「体育」の補助

- **地域イベント**
「**灘崎プレーパーク**」
 - ・ 野外で遊びながら交流「**灘崎文化まつり**」
 - ・ 受付、清掃、舞台の司会
 - ・ 各コーナー等の補助

■ 成果

◆ 組織・運営について

- ・ システムは確立しつつある。

◆ メンバーについて

- ・ 多くの地域ボランティア活動に意欲的に取り組み、様々な世代の人々との関わりを楽しんでいる。
- ・ 灘崎に対する愛着も育っている。
- ・ 高校生メンバーの地域の担い手意識は高い。

■ 今後に向けて

- ・ 卒業生を含めた**登録者の増加**
- ・ メンバーで**活動を企画して実行する場を増やし**、組織と活動をより発展的・自立的なものにする

■ 社会教育委員の意見

- ・ 「**地域の担い手づくり**」という「めあて」を持っている。
- ・ **卒業生が継続して参加**できることは特徴的である。
- ・ 「防災ゲーム」などの進行、補助など、言われたことをするだけではないことに驚いた。**立派な人材育成の場**になっている。
- ・ 中学校を通して登録する等、**制度が良くできている**。
- ・ **公民館のコーディネート**がよく機能している。

